

一人ひとりが輝くために

3月8日は

国際女性デーです

3月8日は国際女性デーです。1900年代初め、女性たちが働く環境の改善や参政権を求めて声を上げたことを背景に、国連が定めた記念日です。現在では、ジェンダー平等について考え、すべての女性が尊厳をもって生きられる社会を目指すとともに、性別にかかわらず、誰もが自分らしく生きられる社会を考える日として、世界各地でさまざまな取り組みが行われています。

ジェンダーに関する課題は、これまで主に女性に向けられてきました。進学や就職、結婚や出産、仕事と家庭の両立など、人生のさまざまな場面で、女性であることを理由に選択を制限されたり、役割を期待されたりすることが、今もなお少なくありません。「女の子だから」「母親だから」といった何気ない言葉や周囲の意識が、知らず知らずのうちに負担となっている場合もあります。こうした状況は、個人の問題ではなく、社会の中で長い時間をかけて形づくられてきたものです。

暮らしの中の  
「当たり前」を  
見つめ直す

国際女性デーには、イタリアを中心に、身近な女性へミモザの花を贈る習慣があります。ミモザは春の訪れを告げる花で、「感謝」や「思いやり」「友情」といった花言葉を持ち、女性の尊厳や支え合いの気持ちを象徴しています。この文化は日本にも広がり、3月8日前後には花屋などでミモザのアレンジメントやリースが人気を集めています。女性同士で贈り合ったり、自分自身へのご褒美として購入したりする人も増えています。

これをきっかけに、女性が置かれてきた立場や身近な「当たり前」を見つめ直してみませんか。その気づきは、女性だけでなく、男性を含めたすべての人が、より生きやすい社会をつくる一歩につながっていくでしょう。

(加藤 記)

